

令和3年第1回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和3年1月21日（木）

2 招集場所 大河原町役場 第1会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

教育総務課長 佐藤勝弘、生涯学習課長 八島良隆、学校教育専門監 山家一博

5 開 会 午後2時

6 令和2年第12回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

舟山委員、丹羽委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告について

報告第1号 令和3年度教育関係予算の要求状況について

教育総務課長、生涯学習課長から説明する。

丹羽委員 | 町の事業をするにも、予算が多く必要であり大変だ。

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

報告第2号 昆虫標本維持管理会計年度任用職員の任命について

生涯学習課長から説明する。

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

報告第3号 民俗資料収蔵室資料整理会計年度任用職員の任命について

生涯学習課長から説明する。

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

（2）専決事務報告

なし

8 議 事

なし

9 その他

(1) 教育長報告

1 「EBPM」とは何か

証拠に基づく政策立案。大河原町は町独自の学力調査を行って、その根拠に基づいて各学校での対策を行っている。今後は、学力、体力、いじめ、不登校でも数値、事実を基にどうやって改善していくか、考えていく必要がある。

2 学力向上

(1) 算数『子どもの「つまずき」の評価』（算数授業研究 130 号筑波大附属小算数研究部）

①「つまずき」の意味と価値を探る（盛山隆雄）

②「つまずき=本質的な学習内容」の図式で測定領域の指導を再考する（磯部年晃）

③全国学力・学習状況調査から見えてきたもの（笠井健一）

④割合として数値化するときの原理に着目する契機となるつまずき（市川啓）

子供達のはつまずきを生かした授業づくりはどうしたらいいか。それを大切にしたい授業はどうあるべきかを話した。特に笠井先生は、これまでの全国学力学習調査での算数の正答率は 66.5%。7 割取れば、全国平均を上回ることができる。100 点を取らなくても全国平均を取れる底上げができればよい。

子供達は、重さの量感には身に付けているが、広さの量感が身についていない。面積とか広さの量感がない。

市川先生は、来年度各校で大学の教員を招聘しての研修をする講師のひとり。先生方の論文の共通していることは全国学力調査を用いて話をしている。つまずいているところや弱いところをどのように克服していくかが教員に求められているところ。

(2) 全国学力学習状況調査

本来来年度は、国語、算数、数学、理科が行われる予定だったが、コロナの影響で最近理科が行われない通知がきた。80、90 点取れる子供が多くでるとよいと思って、直近の平成 30 年度の解説を作ったが、なくなって残念だ。各校では国語、算数、数学の過去問を使って指導を行っているし、少人数学級で、算数、数学教えて底上げを図っている。大河原中学校でも放課後に補習を行っている。今年の 5 月が楽しみである。昨年 6 月町独自の調査では、算数、数学は非常に悪かったが 12 月の結果については次回お知らせする。

①平成 30 年度小学校 6 年理科問題の解説

②平成 30 年度中学校 3 年理科問題の解説

(3) 「なぜ、読解力が必要なのか？」（池上彰）

主体的学びはキャリア教育と関連する。将来したい仕事や職業と今やっている学習が直結する、役に立つことをきちんと話していくことが必要。

因数分解は、社会にでたら使わないと思われているが、文科省では商社の取引では二国間どちらもウインウインになるように、共通項を見つけだすことに役立ち、北野武は映画をつくるのに、因数分解がコマ割りや構成の組み立てに役立っていると話している。今年からの大学入試共通テストも読解力重視となり、これから求められている能力である。

3 防災教育

『子供たちの命を守る新たな学校防災体制の構築に向けて』

大川小学校の事件から 10 年。教訓を生かして各学校で弱かったところをどのようにしていくのか。

(1) 二次被害や管理職不在時を想定した訓練の実施

大地震がおきて火災が起きたらどこに逃げるのか。二次的な被害を考えておく必要がある。また、管理職が不在の場合は、どうするのか。リーダーが不在の時に誰がどう判断し動くのか、訓練をしておく必要がある。

(2) 被災地見学や「マイ・タイムライン」の作成

マイタイムラインとは河川の氾濫が起きそうな時に余裕をもって逃げるために事前に考えておく住民一人ひとりの防災行動計画。国土交通省のホームページにも掲載されている。白石川の氾濫に備えて取り組んでいく必要がある。中学生にはマイ・タイムラインを作成させたり、小学生にはどこのルートを通してどこに逃げるかなど家庭や学校であらかじめ話し合っておく必要がある。

(3) 予告なし、予めシナリオを提示しないブラインド型の避難訓練

予め、防災訓練を予告しないで、実施も必要。

(4) 地域と連携した学校防災に係る実効性の確保

南小学校のおやじの会、大河原中学校の避難所開設など、行政と保護者との連携による取組が見えてきているが、少しずつ膨らませていく必要がある。

(1)～(3)については防災、各学校でどう具現化するか報告してもらうことになっている。

4 年度末・年度始めのリスク・マネジメント

4 月から中学校が新学習指導要領完全実施の 1 年目になる。山家専門監が作成した年間指導計画を学校に配布し自校化してもらう。

①学習指導の進度（定着）等

②個人情報等の管理

③卒業期（進級期）における生徒指導

④引き継ぎ等の「年度渡り業務」を確実に

⑤校内監査の確実な実施

⑥中学校新教育課程完全実施

⑦教職員の事故防止

⑧危険管理のさ・し・す・せ・そ

5 その他

(1)子ども食堂「ひまわり亭」(ひまわり会)

金ケ瀬地区で子ども食堂ができないので、お弁当をつくって配布している。ありがたい取り組み。

(2)金ケ瀬小5年「スマホとのつきあい方」

ソフトバンクの方が講師としてスマホとの付き合い方の授業。携帯・スマホは小学校6年生で50%所持。中学校3年生で70%所持。高校生になると100%所持。どの子にも指導が必要な時代になっている。

(3)大河原中「職業人に話を聴く会」

4名にきていただいて職業について話をしてもらった。

(4)大河原小「第3学期始業式」宮城テレビ取材

大河原小学校のテレビの取材。子供達の声も紹介されていたが、それを見た先輩から「大河原小学校のこども達はきはきと自分の意見をきちんと言える。基本的生活習慣がきちんとできている。」と言われた。

(5)大河原中「新型コロナ陽性生徒への対応」

7 各学校実践

舟 山 委 員	防災について。低学年にはいろいろな災害のタイプによる対応の定型化が必要だと思う。
小 山 委 員	子供のころから、危機感を身に付け、どのように行動するか意識することは大切だと思った。
一 盃 森 委 員	町で取り組んできた学力調査が、年度初め落ちているところを取り組んで、12月に結果を見ている。PDCAサイクルである。事例を挙げて、紹介をして欲しい。目に見える形で示されると、町の学力の向上策がエビデンスとして広く提示できるようになる。これまで必ず成功することだけの提示だったがダメだったことも含めて紹介するとよいのでは。 中学校は教科ごとに動くので、学校全体の学力向上につながらない。英語が弱いなら、すべての教科の先生と一緒に取り組むこともありなのではないか。 防災訓練は二次被害や管理職不在を想定してだが、リーダーシップはすべての先生が与えられた役割を果たすことだと思うので、管理職を除いた先生でどのような役割するかを明確にしておくことが必要なのではないか。

丹 羽 委 員	リーダーが必ず正しいというわけではないので、非常事態のときの判断は先生全員が持っていないといけないのではないかと。
小 山 委 員	北野武の話から、どの教科も教科書に載っていることだけを教えるのではなくて、生活にどのように役立つのかを伝えて欲しい。
丹 羽 委 員	放課後の補習は、人が少ないと先生に聞きやすい。初めて先生に聞けたと話もある。
丹 羽 委 員	授業を聞いて、わからないところを先生に聞くと塾に行く必要がないのでは。
一 盃 森 委 員	つまずきについて。全国学テのB問題は授業の中でやってこなかったのではないかと。先生が、教科書をこえた問題を解かせてこなかったのではないかと。授業の中でどの先生もやれるように。先生がこれまで取り組んできたことを踏まえて次に向かっていくことが大事ではないかと。
舟 山 委 員	重さに関しては、経験値でわかるが、オンラインになると広さの感覚がますますわからなくなるのではないかと。課題になるのでは。

(2) 課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和3年2月の行事予定について説明する。

山家専門監

宮城県児童生徒学習意識調査の大河原町の結果について。

舟 山 委 員	調査の結果を子供達が目にする機会はないのか。中学生くらいなら感じるところがあるのではないのか。県より多いとか。
丹 羽 委 員	金ヶ瀬小・中は、基本的な生活習慣ができていたのかと思うが、意外と朝食を食べていない子が増えている。スマホの利用時間が増えている。
丹 羽 委 員	広表地区は新しい地域。将来の夢や目標を持っていますかの質問が高いことは、素晴らしい。どのように思うか。
山 家 専 門 監	1/2 成人式もそうだが、いろいろなことを見聞きし、小さい時から自分なりの展望を意識する指導がされているのではないかと。中学生になると現実と葛藤がでてくるのではないかと。
一 盃 森 委 員	コロナでステイホームにより、スマホ、テレビ、ゲームが増えることもあったのではないかと。来年度以降の調査結果が気になる。金ヶ瀬小学校が気になる。これまでと変わった傾向。認知的な能力の向上、自己有用感、学習に効果的。調査の数字は追いかけて行かなくてはならない。コロナ禍の中よりよく先生が接してもらっているのではないかと。
鈴 木 教 育 長	データの公表の仕方を広報誌やリーフレットなど考えていく。
生 涯 学 習 課 長	今住んでいる地域の行事に参加していますかの問いが気になった。

一 盃 森 委 員	コロナのこともある。中学生の地域の役割。コミュニティスクールに期待している。自分が参加して活躍できる場面をつくる必要がある。
鈴 木 教 育 長	金ヶ瀬公民館の夏祭り行事の主体が中学生になったりするとよい。
小 山 委 員	スマホの使用時間。G I G Aスクールと増えるが、学校でも使用の制限を伝えて欲しい。上手に使い方を指導して欲しい。
山 家 専 門 監	制限をかけすぎると使い勝手が悪くなるので、兼ね合いが必要と考えている。
舟 山 委 員	スマホの開発者が、自分の子にはスマホを使用させないと言っていたのはショックだった。

10 次回教育委員会の開催日程について

次回は令和3年2月12日（木）午後2時から開会を開催する。

11 閉会宣言 午後4時20分

令和3年2月12日

署名委員

署名委員